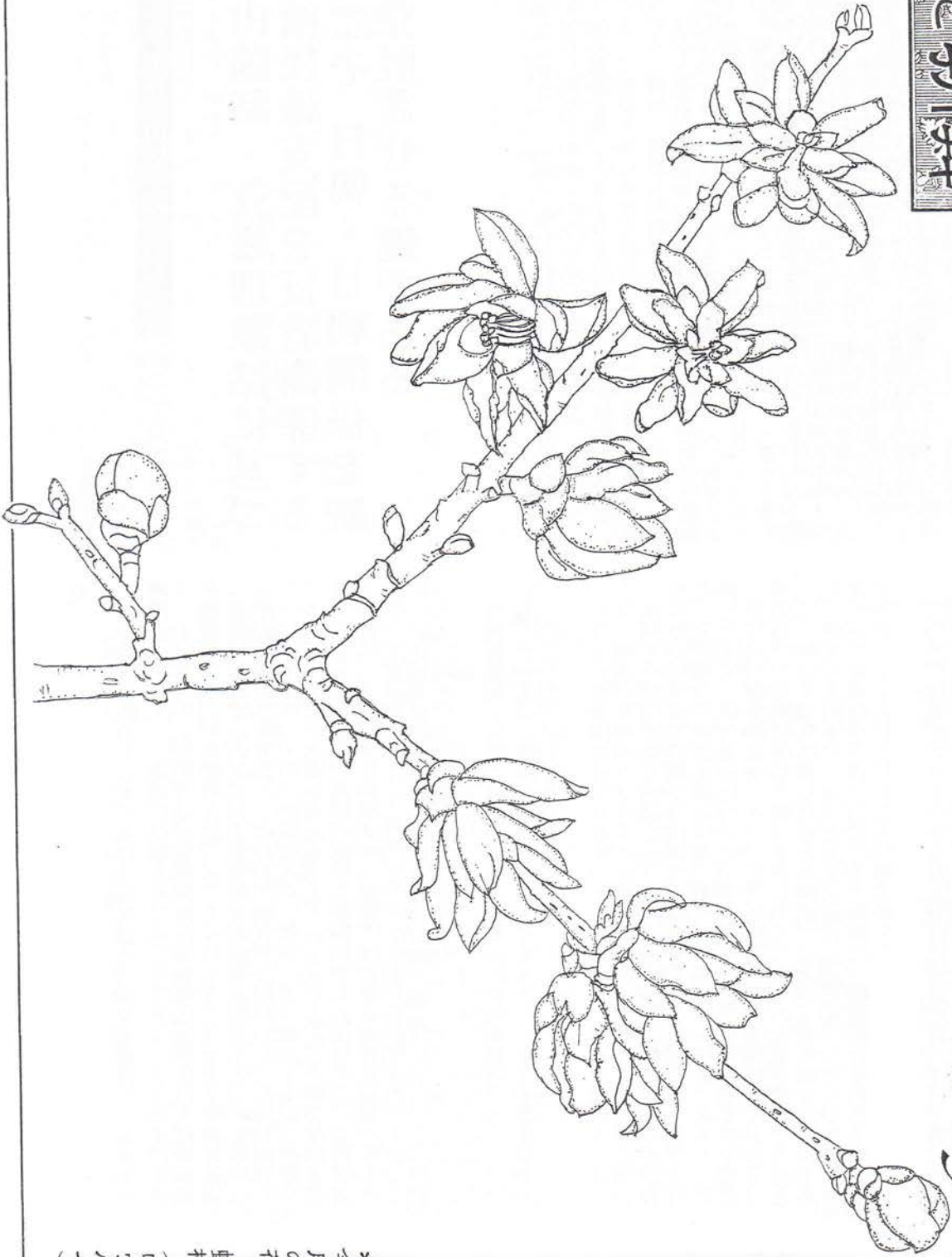


日本と朝鮮

愛知版

No.424



2019.2

* 今月の花 蠟梅 (ロウバイ)

2019年日本市民知識人の声明

2019年2月6日

村山談話・菅総理談話に基づき、植民地支配を反省謝罪することこそ日韓・日朝関係を続け、発展させる鍵である

日本と韓国は隣国で、協力しなければ両国に暮らす者は人間らしく生きていけない間柄である。そういう二つの国の間で、1904年以来41年間の軍事占領、1910年以来35年間の植民地支配が、日本帝国によって朝鮮半島に加えられた。このことが両国の歴史の闇部をなしている。韓国・朝鮮人の歴史の記憶からこのことを消すことはできず、日本人はこれに対して人間的に対処することからのがれることはできない。

朝鮮植民地支配は1945年8月15日をもって終わったが、日本人は国家、国民として韓国併合、朝鮮植民地支配について反省し、謝罪する動きを長く見せなかった。日本は独立した朝鮮の一つの国、大韓民国と国交を正常化する日韓条約を1965年に結んだ。しかし、1910年の併合条約が当初より無効であったという韓国側の主張を受け入れず、合意によってなされた併合であり、植民地支配はなかったと主張し通した。双方の請求権に関する問題が「完全に、かつ最終的に解決されることになったことを確認する」と明記した請求権協定が結ばれたが、根本的な認識の分裂は克服されずに放置されたのである。

る。

この日韓条約のもとで日本は大韓民国との国交を維持し、経済的な関係をとりむすび、多面的な協力を発展させてきた。20余年がすぎ、1987年、韓国では、軍部独裁政権の時代に終止符を打つ民主革命が起こった。そのあとに、ようやくにして、1995年自民社会主義が三党連立内閣の村山富市総理が閣議決定にもとづいて敗戦50年の総理談話を発表し、はじめて植民地支配について反省し謝罪した。日本国家は「アジア諸国の人々」に対して「植民地支配と侵略」によって「多大な損害と苦痛を与え」たことを認め、「痛切な反省の意を表し、心からのお詫びの気持ちを表明」したのである。この反省と謝罪は、1998年の金大中大統領、小渕恵三首相の日韓パートナーシップ宣言において、「韓国の人々」に向けて表明され、2002年の金正日委員長、小泉純一郎首相の日朝平壤宣言において、「朝鮮の人々」に向けての表明となったのである。

植民地支配についてのこの反省と謝罪は画期的な表明であった。しかし、その完成のためには、なお併合そのものについての歴史認識が付け加えられなければならない。

2010年韓国併合100年の年に、私たち、日本の知識人500人は、韓国の知識人500人とともに、併合の過程と併合条約について批判する共同声明を発表した。私たちは、「韓国併合は、この国の皇帝から民衆までの激しい抗議を軍隊の力で押しつぶして、実現された、文字通りの帝国主義の行為であり、不義不正の行為である」と指摘した上で、併合条約について、「力によって民族の意志を踏みにじった併合の歴史的真実」を、「平等な両者の自発的な合意によって、韓国皇帝が日本に国権の譲与を申し出て、日本の天皇がそれをうけとって、韓国併合に同意したという神話」によって覆い隠したものであり、前文も条約本文も偽りであると明らかにした。「かくして韓国併合にいたる過程が不義不当であると同様に、韓国併合条約も不義不当である」——これが私たちの結論であった。

この声明はまず2010年5月10日に発表され、ついで第二次署名者を加えて、7月28日に発表された。そして、この声明にこたえるかのように、日本政府、菅直人総理は8月10日、閣議決定により

韓国併合100年の総理談話を発表した。そこには次のような日本政府の認識が述べられ、反省と謝罪があらためて表明されている。

「ちょうど百年前の八月、日韓併合条約が締結され、以後三十六年に及ぶ植民地支配が始まりました。三・一独立運動などの激しい抵抗にも示されたとおり、政治的・軍事的背景の下、当時の韓国の人々は、その意に反して行われた植民地支配によって、国と文化を奪われ、民族の誇りを深く傷付けられました。私は、歴史に対して誠実に向き合いたいと思います。歴史の事実を直視する勇氣とそれを受け止める謙虚さを持ち、自らの過ちを省みることに率直でありたいと思います。痛みを与えた側は忘れやすく、与えられた側はそれを容易に忘れることは出来ないものです。この植民地支配がもたらした多大の損害と苦痛に対し、ここに改めて痛切な反省と心からのお詫びの気持ちを表明いたします。」

これが、日本国家が「韓国併合」から100年、植民地支配の終焉から55年にして到達した歴史認識である。韓国国民の批判に促され、自らも努力してつかんだ反省と謝罪の新天地である。この総理談話に基づき行方として、日本統治のもとで朝鮮総督府が奪い、日本の皇室財産とされていた「朝鮮王朝儀軌」がこの年のうちに韓国政府に引き渡された。

であれば、いまは日本と大韓民国、日本と朝鮮民主主義人民共和国のあいだにこの問題はすべて、村山談話と菅談話に基づいて、あらたな心で誠実に協議し解決していくべきなのである。日本政府と国民は慰安婦問題について過去二五年間とくりくんできたが、この問題はいま新しい局面をむかえている。もとより北朝鮮の慰安婦被害者に対してもこれから対処がなされなければならない。今日日本と韓国のあいだでは、いわゆる「徴用工」問題、戦時労働員被害者問題が大きな問題として立ち現れている。日韓条約の際協議がなされ、2000年代には韓国政府が積極的な努力を払ったが、20万人といわれる戦時労働員被害者とその遺族の不満の声があらためて日韓関係に激震をあたえているのである。この問題には慰安婦問題同様なお一層の真剣な対処が必要とされる。北朝鮮の戦時労働員被害者問題にたいしては、も同様な対処を考えなければならない。その他に「韓国人BC級戦犯」の問題も存在する。戦犯として死刑判決をうけた92歳の李鶴来老人

は日本政府に謝罪と補償を求めつづけている。日本は朝鮮民主主義人民共和国との国交正常化をすみやかに実現しなければならない。日本政府と国民は、村山談話、菅総理談話に基づいて、韓国、朝鮮の政府と国民の協力をえて、のこるすべての問題の解決にあたるべきである。

本年は三・一独立宣言が発せられてから100年の記念の年である。併合されて、10年の苦しみをへながら、朝鮮民族はなおあの日、日本人に朝鮮の独立を求めることが日本のためだと説得しようとした。三・一独立宣言は述べている。「こんにちわれわれが朝鮮独立をはかるのは、朝鮮人に対しては、民族の正当なる生業を獲得させるものであると同時に、日本に対しては、邪悪なる路より出でて、東洋の支持者たるの重責をまつとうさせるものである」と。

いまわれわれは朝鮮民族のこの偉大な説得の声を聞き、東洋平和のために、東北アジアの平和のために、植民地支配への反省謝罪に基づいて、日韓、日朝の相互理解、相互扶助の道を歩むべきときである。

【発起人】井口和起(京都府立大学名誉教授)・石坂浩一(立教大学教員)・李鍾元(早稲田大学教授)・上野千鶴子(東京大学名誉教授)・認定NPO法人ウイメンズ・アクションネット(理事)・内田雅敏(弁護士)・内海愛子(恵泉女子大学名誉教授)・太田 修(同志社大学教授)・岡本 厚(雑誌『世界』元編集長)・小田川興(在韓被爆者問題市民会議代表)・糟谷憲一(一橋大学名誉教授)・鹿野政直(早稲田大学名誉教授)・小森陽一(東京大学教授)・高崎宗司(津田塾大学名誉教授)・田中 宏(一橋大学名誉教授)・外村 大(東京大学教授)・中塚 明(奈良女子大学名誉教授)・水野直樹(京都大学名誉教授)・三谷太一郎(日本学士院会員、東京大学名誉教授)・矢野秀喜(日韓つながり直しキャンペーン2015事務局長)・山田昭次(立教大学名誉教授)・和田春樹(東京大学名誉教授)

【署名者】二二六名(氏名略)・2月6日現在)

三一独立宣言100年／相互理解と相互扶助の道を！

名古屋三菱・朝鮮女子勤労挺身隊訴訟

名古屋提訴20年・韓国大法院勝利判決報告集会

金中坤さんが1月25日に亡くなりました(享年94歳)。勝利判決を知り、“よかったね”と言われてつもの間のことでした。中坤さんは、『生卵は岩をも穿つ』と諭されたことがあります。私たちは2019年11月2日、とうとう「岩のひび」を確認することができました。うらかな春はもうすぐそこです。

以下ご案内します。奮ってご参加下さい。

記

- ▶日時: 2019/3/10(日) 13:30~16:00
懇親会(2,000円) 16:30~18:00
- ▶場所: 労働会館東館ホール(名古屋・金山)
- ▶内容: 基調報告・記念講演=崔鳳泰弁護士(予定)
・連帯発言・支援する会から・今後の課題ほか
- ▶参加可の場合は、高橋宛FAX=052-784-7176まで
- ▶問い合わせ先=高橋信: ☎ 052-762-1528
- ▶主催=名古屋三菱・朝鮮女子勤労挺身隊訴訟を支援する会

ごあんない

前へ! 未解決 朝鮮女子勤労挺身隊問題

ご冥福をお祈りします

重工・名古屋へ
国民学校卒業直後、
憲兵の『勧誘』で三菱

故 陳辰貞さん



陳辰貞さん。一九二九年十二月

一日生まれ。二〇一九年一月十九日逝去(満八九歳)。全羅南道羅州大正国民学校を一九四四年三月卒業、その後、憲兵からの「勧誘」で名古屋の三菱重工(株)名古屋航空機製作所に『勤労挺身隊』として動員された。一九九九年三月一日、名古屋地裁に提訴、日本の最高裁まで闘った。『訴状』から

勤労挺身隊の労働と生活を直に知り、解放後の『挺身隊言説』被害実態をいち早く日本に

故 金中坤さん



【写真は、裁判が始まる前から、たびたび訪日、訪名をくりかえした金中坤さんの名古屋での一場面】

【写真は、提訴の日、仲間、弁護士、支援者らと共に裁判所に向かう陳さん】

【写真は、妹の金淳禮さんは、勤労挺身隊員として三菱名航空に動員され、一九四四年十二月の東南海地震で死亡した。妻の金福禮さんも勤労挺身隊員として三菱名航空に動員され、名古屋訴訟原告にもなったが、提訴後に亡くなった。中坤さんは妹らの動員現場を訪れたこともあり、当時の挺身隊員の労働・生活実態をナマで知る数少ない証言者であったこと、さらに解放後(日本の戦後)、「軍慰安婦」視されてきた勤労挺身隊員をめぐる事情・風潮を、日本社会にいち早く知らせた韓国人であったし、名古屋訴訟と光州訴訟の原告でもあった。



三菱重工に「通告書」

原告の命に明日はない!
工はいまもさくさく

協議による解決目指し、二月中に誠意ある回答を！
国大法廷での、勤労挺身隊被害者原告の勝利判決を受けて、
二月十五日、東京千代田区の三菱重工本社前で、日韓の弁
護士・支援グループが同社に協議解決を求め要請行動を
行った。名古屋「支援する会」共同代表の高橋、寺尾の
両氏が、重工の担当課(管財グループ)渉外担当課「長らと
面談。二月中の回答を迫る「通告書」(下配)を手交した。
合わせて、「回答がない場合の強制執行」、「二年間にわた
って継続した協議の教訓」、「解決は被害者のみならず、企
業側にも大きなプラス」、「三二運動百年にあたることしの
解決には特別の意義」など、高橋氏、寺尾氏が提起した。

2019年2月15日

三菱重工業株式会社
代表取締役社長 宮永俊一殿

勤労挺身隊光州訴訟弁護団
弁護士 李 尚甲
弁護士 金正熙
広島徴用工訴訟弁護団
弁護士 崔 鳳泰
弁護士 金 世恩
勤労挺身隊光州訴訟原告・
広島徴用工訴訟原告一同
勤労挺身隊ハルモニと
共にする市民の会
太平洋戦争被害者
補償推進協議会

通告書

二月末までに誠意ある回答
がない場合は、強制執行を取
る用意があることを改めて、
貴社に通告する。

以上

労働弁護士

2019年
1月発行

高木輝雄の
しごと

50年

闘わなければ明日はない



高木輝雄弁護士

大須事件と高田事件/四日市公害訴訟/全港清
金検分金事件/レストランスイスイス事件/愛知労
事件/大隈鉄工抱積機事件/名古屋新幹線
公害訴訟/国鉄分割民営化及対闘争/労働者
委員任命取消訴訟/ゆたか福祉会事件/名古
屋自動車学校事件/名古屋三菱勤労挺身隊事件
—本書でとりあげた事件より—

名古屋共同法律事務所・編

四六製本製154ページ
定価1600円+税

目次

刊行に寄せて 中川武夫

第1章 労弁誕生まで25年 何もかも時代が作った

第2章 若き労働弁護士誕生 大きな敵に立ち向かう

第3章 名古屋新幹線公害訴訟

第4章 闘わなければ明日はない

労働弁護士50年、これまで、これから — 高木輝雄

本書を推薦します。
本書は、わが長友・高木輝雄弁護士の
50年のことを語った自伝史である。
しかし、愛知の労働弁護士や運動のこ
とに限定されない、見事なまでの普通
性に富んだ本書に、読者は勇気づけら
れるだろう。もう一度行けと言われ
たら、私はまたこの道を行く。テラリン
という気高さがそこにはある。
森 英樹(名古屋大学名誉教授)

かもがわ出版 〒602-8119 京都市上京区堀川出舟町人
TEL 075-432-2868 FAX 075-432-2869

発注・出版に関するお問い合わせは 〒601-8122 京都市中京区上白河町本町11番
かもがわ出版流通センターまで TEL 075-672-0034

FAR (フレンド・アジア・ロード) 勉強会

日時 : 3月28日(木)午後3時~
場所 : 名古屋国際センター4階第3研修室
(中村区那古野、泥江交差点東北角)

加藤清正の虎退治と『瑣尾録』

FAR望年会で『瑣尾録(さびろく)』の翻訳について語った栗木伸子
さんの講演の“続編”。清正の虎退治は伝説か史実か、朝鮮時代の文
人が残した日記が証明してくれます。

講師: 千田龍彦さん(読売新聞記者)

講師略歴/読売新聞中部支社経済部長、同専門委員、名古屋
外国語大学非常勤講師などを務め、著書に「尾張な
ごや傑物伝J(風媒社)。FAR発足以来のメンバーで、
現在は副理事長。過去の勉強会では「罽童謡の恋愛
論」「イ。ピョンファン監督論」を語る。

- ★参加費は会員500円、会員外600円
- ★問い合わせはFAR事務局の田中(090-1727-3860)まで

ごあんない

三・一独立運動一〇〇周年に寄せて

治安維持法で検挙された朝鮮人

西 秀成

愛知県の二二〇余人を追う

検挙された朝鮮人は四分の一

『治安維持法検挙者の記録—特高に踏みにじられた人々』は二〇一六年五月に刊行された七〇〇ページ余の本である。著者の小森恵（本名・小黒義夫）氏は東京大学社会科学研究所資料室に勤務していたが、一九八六年に刊行された『社会運動・思想関係資料案内』ほか、資料の紹介、目録などの本を出版し、社会運動、裁判の資料のプロフェッショナルであった。彼は、『特高月報』『思想月報』ほかの特高の資料、裁判の記録などを調査する中で集めた治安維持法の被害にあった人の「人名辞典」を作成しており、人名は一万五千人弱に達した。小森氏は二〇〇四年死去されたが、西田義信氏が訂正などをおこない、解説などを入れた一冊の本を作り上げた。渡辺治氏は、「戦前・戦後期の治安体制や社会運動を研究者にも大きな武器を提供するものであり、「国民救援会などでは、ぜひこれを備え、地域の運動や記憶の掘り起こしに、大いに活用していただきたい」と述べている（『しんぶん赤旗』二〇一七・一・二二）。

この本を見ると、検挙された人の年月日、『特高月報』な

どの記事は何月号何ページに書かれているが、すぐわかる。私は、この本を用いて、東海地区で検挙された人名、他の府県で検挙されたが本籍が愛知県である人名を一覧表に作ったが、愛知県で四七七人に達している（検挙された人は全員『特高月報』等に掲載したのは不明である。）この中で、本籍が朝鮮と書いてある人と、人名が朝鮮名である人数は少なくとも一〇人前後に達している。小森氏の本によると、重複している人や小森氏が見落とした一九四五年の『特高月報 原稿』（国会図書館蔵、朴慶植編『在日朝鮮人関係資料集 第五巻』所収）などを入れると、愛知県内ではほぼ一二〇人以上、朝鮮人は四分の一を占めている。これらの朝鮮人は、三一運動の伝統を受け継いで、朝鮮の独立を目指した人びとだった。

この稿は、朝鮮人の検挙者を手がかりとして、朝鮮人の社会運動とその弾圧の経過を触れていくことにする。朝鮮人はゴチックにしておいた。

労働運動・社会主義運動などによる検挙

治安維持法は一九二五年に成立し、「国体の変革、もしくは私有財産制度の否認を目的として結社または、情を知り

三・一独立宣言100年／相互理解と相互扶助の道を！

て加入」することを「罪」としている。一九二八年に三一五事件により多数の共産党員が検挙されるが、被検挙者の大部分について共産党員であることが証明できなかった。内務省は労働農民党、全日本無産者青年同盟、日本労働組合評議会に加盟しているだけで逮捕するようになった。六月には治安維持法が「改正」となり、「国体変革」の罪を「死刑又ハ無期懲役若ハ五年以上ノ懲役」と重くし、「結社ノ目的遂行ノ為ニスル行為」を加入罪と同等に扱う「目的遂行罪」(略して目遂)を定めた。日本国内では、裁判において治安維持法違反での死刑判決はなかったが、朝鮮では約二〇件、四八人が死刑に処せられている。

愛知県内で検挙された最初の朝鮮人は、一九三〇年十二月の朴敬礼である(以下、一九〇〇年の一九は省略)。彼は全協(日本労働組合全国協議会)に加盟して、無産者新聞を配布していた。全協は二八年四月に解散させられた評議会(日本労働組合評議会)の後継団体として十二月に創立され、三三年五月に「結社罪」が適用され、解散に追い込まれた。三二年に検挙された呉上録、金明圭、三三年の権仁洙、権寧祖(後出の同名の人物と同一かは不明)、三四年の金二賛(金仁賛と同一か)、申山祝、宋判石、権夢相、宋守業、朴寅河、河明完は、いずれも全協に加盟しているのが、検挙の原因であった。

資金供与、新聞購読などで左翼団体との関係を持つものがあり、その人物は「党目遂」(共産党の目的遂行罪)として検挙されるものもあった。三三年検挙の呉南才はプロット(日本プロレタリア劇場同盟)豊橋支部で活動しており、朴蘭秀は名古屋医大生で資金供与が原因であった。三四年

の李猛伊は「党目遂」、宋臺顕は「党共青目遂」とされている。「共青」は日本共産青年同盟の略であり、三三年五月に結社罪を適用されていた。三七年に検挙された趙仁夢、朴基洪、柳鐘寛、朴順祚、朴昌圭、李秀徳、金鐘玉、朴英熙、姜沅模、権寧祖は「党目遂」、梁性皓(梁性皓の間違いか)、李寛雨、河永駿、蘇栄一は「党全協目遂」、三九年検挙の金夢祥は「コミンテルン党目遂」と書かれている。また、三六年に検挙された李鐘文は「アナ党目遂」とされており、アナキストであった。

次に現れるのが、名古屋合同労働組合の組織者であった。名古屋合同労働組は、三五年十一月に結成され、石川友左衛門、申山祝などが組織した労働組合である。全協の革命的伝統を守るとともに、セクト的非法活動を批判し、コミンテルン第七大会での「反ファッショ・人民戦線」の戦術を取り入れられ、組合員には朝鮮人が多数いた。その中で金炳仁、権寧祖、崔定烈、金啓吾、孫爽出、白漢甲、金朔方、呉龍燮、愈英男、金祐徳が検挙された。また、人民戦線結成のためにエスペラントティストの組織であるポポロ社の足立直二が名古屋合同労働組のメンバー数名を社会大衆党名古屋支部に加入させた。その内に朝鮮人がいて、朴斗尚、呉鳳洙が検挙された。三二年十二月五日には日本人の石川友左衛門、中久木勝利なども検挙され、その後も崔富根、鄭相魯が検挙されている。名古屋合同労働組は壊滅したかと思われたが、三七年三月になると名古屋合同労働組再建準備委員会が秘密裡に立ち上がった。そのメンバーはほとんど朝鮮人だった。一九三八年九月に金順得、蔡炳鎭、梁性皓(梁性皓は同じか)が検挙された。そのうち、

蔡炳鎬は富山県で合同労組の支部を作ろうとしていた。

全協が壊滅すると、三四年には合法左翼組合が全評(日本労働組合全国評議会)を成立させた。ほぼ同時に日本無産党が立ち上がった。これらは、反ファッショ統一戦線と見なされ、三十七年十二月には解散させられた。この関係で朴廷夏が三十七年十二月に、金九日が翌年十二月に検挙された。

朝鮮独立運動による検挙

四〇年以降には、左翼による闘争は押さえ込まれてしまった。この中で、若い朝鮮人が独立闘争を始めていた。

三九年五月に曾根タイルの職工だった李秀濤が三一運動などの過去の運動を検討し、レーニン主義による民族解放闘争は誤りであり、ヒトラーやムソリーニを民族国家のモデルとした運動を起そうとして民族復興会を立ち上げた。金玉斗熙、梁達成、申壬休、李諸同介を同志として獲得し、李鐘文(三六年アナキストとして検挙)が音楽研究会(聖楽団)を組織した。四〇年六月に一斉検挙となり、以上の人以外に金寿根、金字泳孝、金客熙、金公善、金潤坤、金徳根、申元植、申壬休、金外達、張彩文、南聖祚、朴成圭、李燦圭、柳達成が検挙され、合わせて一九人に及んだ。(創氏改名によって日本名を押し付けられた人がいる一方で、普通、朝鮮人が使用していない名を用いる人もいたし、特高が間違えて書いた人もいるが、『特高月報』に名前が出ている通りに記述している。)

アジア太平洋戦争が始まった日の翌日、朝鮮基督教会の牧師、信者などが一斉に検挙された。朝鮮基督教会は四〇年四月に成立した宗教団体法により、プロテスタント系教

会の一部として日本基督教団となったが、日本の教会の国家主義的傾向を強めることになり、異質な存在となっていた。検挙された牧師は朴尚東(日本名・松村正治)と秋仁奉(同・秋田實)であり、信者安承榮(安本承榮)、同鄭丁達(竹橋善作)、同官昌錫(山田薫)、長老朴永周(木村廣一)、教会執事石泗琿(石川榮四郎)、長老劉野錫(先田清一)が送検された。また、三村忠雄、劉聖錫は検挙されたが、送局まではいかなかった。秋仁奉は、四二年三月には東京市傭員となっており、「旧全協刷同派・党再建」として検挙されている。

四二年十一月に名古屋在住の朝鮮人学生、金原初雄、岩本武雄、太田政行、高山海日が会合して、「臥龍会」を結成した。「会則」では、「朝鮮独立の為お互いに助け合ふ」と述べているが、太田は「ロシアに潜入して文化軍事情勢を研究し、ロシア在住の半島人を同志として獲得する」、高山は「南方に行き大資金を獲得し後日の運動資金」とする、岩本は「支那に渡り重慶政府並支那在住半島人同志の援助を求むること」などを決定した。四三年十二月になると特高警察が朝鮮人の学生の「一斉調査をしたところ、学生の中に「吾々半島青年は内地人の圧迫を排し、自らの運命を開拓する為勉学すべき」などの演説をした者がいたという」ことを聞き出し、四三年八月には上記の四人以外に華山鉉奎、長本三峯、橋本植両、金光重雄を検挙し、やや遅れて豊田博介、杉村忠雄、太田五均を逮捕した。

四三年一月には東亜聯盟を利用した独立運動として、井上義郎、金山東倒、水共正杓、岩本享介が検挙された。東亜聯盟は、石原莞爾を指導者とする右翼的国家社会主義団

体であるが、「五族協和」による「東亜連盟」の結成を構想していた。

四三年六月には、大川華錫、檜山琪榮、佐藤勇が検挙された。「祖国慰安会」として送局されたのは、檜山、佐藤のほか、林元甲、林亨燮、高城周浩の五名である（あとの三名は小森氏の本には記されていない）。七月には金本宗奉、金澤徳言、山田廣祐が朝鮮独立運動として検挙された。金本は、明倫夜間中学校に在学中に朝鮮人への差別圧迫に対する民族意識を鋭化し、学友の金澤、山田が「朝鮮独立の企画策動中を知るや、『吾々同胞学生は益々団結を鞏固にして時期来らば蹶起せねばならぬ』との啓蒙煽動をして、東亜聯盟利用を利用すべく互に同聯盟理論を研究協議」したという。金本宗奉は、東条英機あてに「我れ天地神明に誓って朝鮮独立運動を起すものなり。日本人に大和魂あれば、我等朝鮮人にも然か事き愛国の血潮と古来の朝鮮魂し有、東条君朝鮮京城の警戒をもっとしっかりしたまエ」(『特高月報』記載のママ)と投書して四四年三月にも検挙されている。

さらに、九月には金本古萬（女性）が「空襲に対する恐怖心」から、豊田豊子に対して「敵が落下傘で降りて来たら日本人は殺されるかも知らないが、自分達朝鮮人は助けて呉れるだらう」と漏らしたのを、豊子はこの「造言」を豊田一夫に漏らすなど、逐次流布したとして金本、豊子ほか三名が検挙された。十一月には陽許燿、玉山永誅、光廣三出の三名が朝鮮独立運動として検挙されたが、詳細は不明である。

また、小森氏の本には出てこないが李根道（別名、雅道、

高山正蔵）ほか七名は、もとは名古屋市内の滝上鉄工所に勤めていたが、空襲の激化で岐阜県今渡町（現、可児市）に疎開する中で二〇名ほどが集まり「米兵ガ本土へ上陸デモシタラ、郷里ノ朝鮮人ノ独立運動ヲ始メルデアロウ、ソウスレバ内地人ハ勿論我々ヲ殺スコトニナル、我々ハ団結シテ自身等ヲ守ルヲ為戦ハネバナラヌ」などを話し合っていたが、特高はこれを「朋友講座会」として一斉検挙したが、四五年七月のことだった。検挙者は、高山、松村裕吉、梅田耕蔵、梅田正弘、木下道吉、木下春吉、忠岡永申、木下新吉である。

以上、『治安維持法検挙者の記録』などによって、検挙された朝鮮人の名前を紹介した。

（参考文献）

- ▽小山恵（西田義信編）『治安維持法検挙者の記録—特高に踏みまじられた人々』二〇一六年（文生書院）
- ▽荻野富士夫『よみがえる戦時体制—治安体制の歴史と現在』二〇一八年（集英社新書）
- ▽西秀成『戦前期・愛知県における在日朝鮮人の諸団体』二〇一〇年（日朝協会愛知県連合会）

西 秀成・著 日朝協会愛知県連合会・刊

戦前期・愛知県における 在日朝鮮人の諸団体

主な団体とその解説

★1,000円（送料別）
★問合せは、
090-4263-7197
（小出）まで

三一独立宣言100年／相互理解と相互扶助の道を！

愚公山を移す

朝鮮の経済、 逆境と理念と

- 一、朝鮮社会主義の歩み
- 二、国家創建70周年の今【以上、前々月号】
- 三、金正恩委員長の経済戦略【前月号】
- 四、朝鮮経済の展望【今月号】

金宗鎮

朝鮮経済の展望

(1) 好転する貿易環境

朝米の新しい関係は、朝鮮経済発展の客観条件となる。制裁に加わった国々との敵対関係の消失は、それだけでも、今の朝鮮経済の成長に利する。

日本の植民地支配の清算と朝日関係の改善はその及ぼす経済的効果は大きい。

北と南の統一プロセスの加速も、経済のウインウインをもたらす筈だ。

(2) 朝鮮社会主義経済の展開

I 「人間中心」の経済思想の長所

他民族支配からの解放と階級の抑圧からの解放をなしとげた朝鮮経済の志向は、経済の「主人」となった人民自身を「自由」にする。

階級闘争の見地からすれば、闘士（革命化）に成長させ、経済的見地からすれば「負担の重い労働」から解放をめざす。

本来、労働とは、「生きがい」のある本質を持つ。しかしながら搾取と隷属の関係は否定的な作用と

なった。

朝鮮社会主義は、働く人々を労働の主人となし、なお物理的な負担からの解放をめざす思想を持つ。よってその長所は、労働者に強い精神力を与えている。（七〇年間の苦闘にみる）

経済発展の「主人」の役割が発揮される。

II 「全人民の人材化」・科学技術力の向上

世界初の十二年制の義務教育、大学の無償化、企業所の工場大学・・・朝鮮は教育国家である。『全人民の人材化』『世界に飛翔せよ』が全国的なスローガンとなっている。かつては、「全民武装化」と呼ばれていた時期もある。

高校生の中には、「北京数学オリピック」で中国学生と金メダルを争っているとか。

ピョンヤンを始め、各道別にエリート校が置かれている。かつては、平均主義的な義務教育一辺倒であった。

党七回大会では、「金日成総合大学」の世界一流大学化を始め、教育の現代化をうたっている。

現在、朝鮮にはコンピュータに精通した人材が多い。（米国からはハッカーと非難されているが、米

・ロ・朝が三大サイバー戦能力を持つと言われている）

III 資源大国活用時代へ

朝鮮は資源の宝庫と言われる。タングステン、モリブデン、マグネサイト、無煙炭等々。

マグネサイトは世界二位、黒鉛は世界三位、亜鉛は世界五位の埋蔵量を誇る。

韓国エネルギー経済研究院によれば、約三百兆円規模と推する。

石油もある。一九九七年、南浦沖で日産四五〇バレルの原油を採集した。カナダのカンテイクスは五〇〇四〇〇億バレルの原油が埋蔵されていると発表した。外国資本、米・英・日等の動きがあるという。

IV 観光資源の開発へ

元山から金剛山までの、国際観光ベルトが進められている。

韓国の「現代」初代会長が、牛百一頭を出身地の北に送ってから、金剛山観光は始まったが、世界有数の観光地に変化するであろう。

また、南北を分断している非武装地帯の四km×二百kmの手つかずの自然地帯が、大自然観光地に変身される日を、望む声も出ている。

(3) 朝鮮社会主義経済は

【おわび〜編集部】 前号の14頁と15頁が、誤って入れ替わってしまいました。筆者の金宗鎮氏、読者の皆様におわびして、訂正します。

どうなる

にわかに朝鮮の改革開放が注目を集めている。朝米のデタラシの新時代到来と南との経済協力関係の強化からである。

また、中国の改革開放による経済成長の現実からも、「それしか無い」と考えられている。しかしながら、朝鮮は社会主義経済を投げ捨てることはないだろう。

中国は「人民公社」を解体してしまった。内陸地区では小規模・零細経営に姿を変えた。働き手を出稼ぎにとられ、その送金からくも支えられている。

そもそも「人民公社」は急進すぎて、一気に全人民的所有という社会主義の高い段階の所有形態から始まった。

「生産関係」の「社会的所有」によって、農業の発展を期待するものであった。

朝鮮の理論は、『わが国における社会主義農村問題にかんするテーゼ』で明らかにされた。

農村の後進性を、技術(生産性)のおくればかりでなく、その文化性、特に思想性のおくれを統一的にとらえた。

農村における思想革命は農民の中のにこる古い思想の残りかすを

なくし、彼らを労働者階級の先進思想で武装させてはじめて、農村に樹立された社会主義制度を強化し、農村を速やかに発展させることが出来る、とする。

教育の普及と党・国家・都市の支援が組織的に行われて、農民の利益と社会主義制度の強化が共に進められていった。

社会主義制度の樹立は、農民の社会主義意識の成長を促す。されども、思想教育によってそれは深化される。

『思想革命は、人々の意識の領域においてまで資本主義を終局的になくすための深刻な階級闘争であり、すべての勤労者をあらゆる古い思想の束縛から完全に解放し、先進的な労働者階級の思想、共産主義で武装させるための重要な革命課題であります。』

『社会主義社会では、まだ能力に応じて働き、必要に応じて分配できるほど生産力が発展していません。またすべての人がみな国の財産を、自分のもののように責任をもって愛護し、管理する気高い集団主義精神を持ち合わせていません』(金日成著作集)。

「釣った魚に餌をやらぬ」と人は、結婚後の愛情を揶揄するが、

本当に必要なのは、結婚後の相互の愛情深化なのだ。農民の思想意識の解放は一朝一夕にはならない。朝鮮では集団農場化の後にも、自分の土地への愛着の強い農民に対して、「自留地」を認めてきた。農村では世帯当たりの30mの自留地を持つている。よって「農民市場」が認められてきた。

「人民公社」とは違う「ハンドルのアソビ」があった。しかしながら、かつてのソ連のホルホーズの農民のような広さの自留地はなかった。

朝鮮の経済が、ソ連崩壊と大自然災害により危機を迎えた際、すなわち国の供給経済が打撃を受けて困難を極めたときに、この農民市場は「市場」として苦難をしのごう一助となる。

一九九八年金日成総合大学李東九教授の研究論文は、農民市場の意義について論じている。

○農業副産物をより多く生産できる。

○国営商業網の及ばない商品供給ができる。

○都市勤労者の生活上には助けとなる。

○農民の現金収入をある程度高める。

として、農民市場の価格について、「誤って干渉すれば、かえって闇取引を助長させる」と述べている。自留地での生産はどれ位か。コメの場合十一万ト、トウモロコシの場合は十五万トという。(筆者の弟一家の所では、キュウリ、ナスビ、ブドウ等々がつくられていた)

また一九八四年からの「人民消費財生産」(国の計画経済外の生産)、家内工業で生産されたものも農民市場に出される。(アイスクリームも見かけた)

農村管理上では、「ポジション(圃田)管理制」が行われて、計画の三十%を集団農場のものとして残す。

科学技術面では、バイオテクの導入に力を注いでいる。農村大学の教育に力を入れる。

農村支援は、都市からの青年・学生と人民軍兵士たちの労力支援が行われる。

農村経済の発展方向は、「重い農業の労働からの解放」と「農民の思想的向上」を主軸にしながら、「イセンティブの付与」を与えている。農村・農民の発展状況と社会主義の志向の強化の組み合わせと見える。

I 朝鮮社会主義の工業発展戦略が、朝鮮労働党第七回大会で示された。朝鮮労働党金正恩委員長の発展戦略は、現在の朝鮮の立ち位置から展開された。

・・・事大と亡国を宿命の如く甘受せざるを得なかつた弱小民族が、列強の角逐の場として踏みこじられた昨日の弱小民族が、今日は堂々たる政治軍事強国に転変した、自主的人民の尊厳ある主体朝鮮の百年史であつた。

自主の道、先軍の道、社会主義の道を行く、ここに朝鮮革命の百年大計の戦略があります。(二〇一・四・一五)

では、経済強国の設計は

II 『我々は新しい世紀、産業革命の火、「咸南の火」(自力更生の先進の地)をより強く燃やし経済強国を全面的に建設すべき道に立ち入る』(金正恩)

一九九〇年代、CNC(コンピュータ)数値制御による)機械工業を創設した。情報技術、ナノ技術、生物工学の土台を創ること成功。

III 『国防と経済、人民生活の物質的手段を自力で生産し、科学技術と生産が一体化され、先端技術産業が経済成長の主導的役割を

果たす自立経済、知識経済がまさに社会主義経済強国です』(金正恩・第七回大会報告)

IV 経済の発展方向は政治理念による。また経済発展は誰のためものかによつて、その自立性、独自性の価値が決定される。

▽帝国主義の脅威から自主権を守る。

▽大国主義の干渉と専横から国と民族の尊厳を守る。

V 経済の発展は科学技術に依拠する。

『経済強国建設の、我が党の戦略路線は自力自強の精神と科学技術を掴み人民経済の主体化、現代化、情報化、科学化を高い水準で実現し、人々に有足かつ文明的な生活条件を整えることです』(同上) これは二〇一六〜二〇年の『国家経済発展5ヶ年戦略』として発表された。

その目に見える成果として建設ラッシュがある。

VI 朝鮮の経済成長は、社会主義の理念と先端技術の結合による。

そのために「全人民の人材化」が国家目標として提出されている。かつて「全人民の武装化」の成功を以て、戦争を抑止したスローガン

が、今経済発展の経済戦士を育て上げていく。

「社会主義の理念では経済の成長は無い」、と考えられている昨今である。

GDP世界第二位の大国中国の実例がある。一九七二年の中国と米国のデータによつて、中国は反米路線をやめ、次第に国際通商レジームの規範を受容した。

GATT/WTO加盟、そして社会主義の成長の「核心」を経済とした。企業の本格化とインセンティブの付与が主な改革措置として始まった。企業は設備投資に走り、「社会主義的市場経済体制」の構築へ進む。

国有企業の有株式会社、株式会社、国家単独出資会社への再編が本格化した。(株式は所有制に影響するものでないとした)

一九九九年の第九期全国人民会議第二次大会では憲法改正され、私营経済が国家の「重要な構成部分」に格上げされた。

今や農業における社会主義制度の「人民公社」の解体に次いで、工業における「民営化」が主導することになった。

朝鮮の社会主義は民族解放・階級解放の先に「人間の解放」を見

すえている。

すなわち社会主義制度はその完成のためには、社会主義的人間(闘士)の育成を課題とする。社会主義的「富づくり」よりも社会主義的な「人づくり」を先行させる。

これは階級社会の包囲の中に生まれた制度の必然である。労働者階級を社会の主人の位置に押し上げる、革命化が優先する。

民族解放、階級解放、社会主義的人間解放の先にあるものは何なる社会なのか、国々の主体的な存在は、あまねくゆきわたること、普遍たり得ないのであろうか。

▽

五十年代後半から日本経済の急成長、七十年代からNIEs(アジアの新興工業経済地域。韓国、台湾、シンガポール、香港)、八十年代からASEAN、中国と発展している。

グローバルな海外進出、高等教育機関の整備、IT技術、金融工学、良質な労働者、リープフロッグ(後進国が先進国に学び飛び越える)等々が発展の要素となった。逆境に打ちかつた朝鮮経済にとつて、さしたる難事ではない。



映画のポスター

目立つ「日本化」の場面 作品の意図にナゾ残す

鑑賞のおすすめ



【その 39】

韓国映画(2002)
『ロストメモリーズ
(2009 로스트 메모리즈)』

伊藤 一郎

(koreamovieculture@yahoo.co.jp)

朝鮮文化を知る会

本作品(SF)は韓国で二〇〇二年二月、日本では二〇〇四年三月に公開された。あらすじは以下のとおり。

一九〇九年、安重根によるハルビン駅での伊藤博文暗殺が失敗した。そして初代朝鮮総督に伊藤が就任する。そしてその後の三・一独立運動(注1)や上海天長節爆弾事件(注2)などがすべて弾圧される。日本とアメリカは同盟を結び、日本は第二次世界大戦に連合国側から参戦する。原爆はドイツのベルリンに投下され、日本は第二次世界大戦に勝利して東アジアを統合し、国連常任理事国入りを果たした。その後日本は人工衛星スクラ一号を打ち上げ、名古屋オリンピックを開催、二〇〇二年にはサッカーワールドカップを単独で開催する。一方で朝鮮は日本による植民地統治の成功によって日本の一部となり、京城(ソウル)は東京、大阪に次ぐ「日本」第三の都市として繁栄した。

そんなある日のこと、京城で事件が発生する。二〇〇九年、伊藤会館で開催されていた井上財団の展示会場でのパーティーを朝鮮独

立派組織「朝鮮解放同盟」が襲撃し、客を人質に立て籠もる。朝鮮総督府は日本捜査局(JBI)に出動を命令した。主人公の坂本(チャン・ドンゴン)とその友人の西郷(仲村トオル)が現場に駆け付ける。

事件はJBIによって解決するが、坂本と西郷は捜査を進める過程で、事件と井上財団との関連について知ることとなる。しかし捜査の途中で坂本と西郷には捜査中止の圧力がかけられる。坂本は自身の父の死と事件との関連性を知る。

坂本を演じるチャン・ドンゴンは、韓国映画『友へチング』などにも出演しており、日本でもおなじみの俳優。また西郷を日本人の俳優の仲村トオルが演じている。本作品への出演により、仲村トオルは外国人として初めて大鐘賞助演男優賞を受賞している。

映画はアクションが中心のSF映画で、歴史を扱った重苦しい内容ではなく、むしろ若者受けする娯楽映画と言える。しかし頻繁に日本語の台詞が出てくるため、韓国映画とは思えない。

一九〇九年十月二六日のハルビン駅。駅のホームに降り立つ伊藤博文を安重根が暗殺しようとするが、暗殺前に安重根は射殺され、暗殺は未遂に終わる。



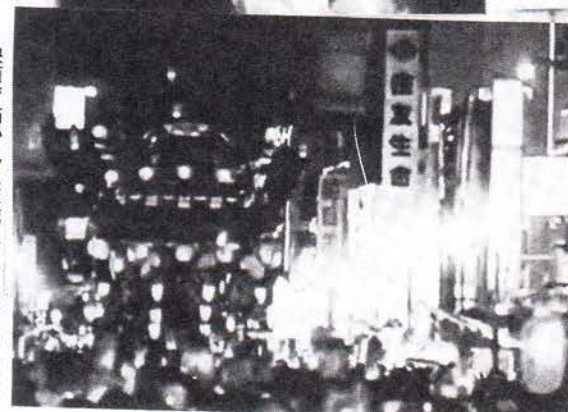
西郷の家庭を訪れる坂本。映画では韓国が完全に日本となっており、家屋の様式、街の風景が日本風に統一されている。



日本捜査局（JBI）の捜査員を演じる坂本（子ヤン・ペン・コン）とその西郷（仲村トオル）



映画で描かれた京城（ソウル）の風景。日本の財閥系企業や日本企業の看板が多く見られる。



映画を見ていくうち、なんとも言えない違和感を覚えた。まず作品の大部分で「大日本帝国」による東アジア統合が既成事実化している点である。しかも朝鮮もその一員として経済発展を遂げているという設定、また映画の随所に日本語が使われ、日本化された京城市街や朝鮮総督府庁舎などがCGで合成されている。サッカー韓国代表・李東国のユニフォームの国旗も、CGで日本の日の丸に変えられている。ソウル市中心部の光化門ロータリーの李舜臣像がある場所に、豊臣秀吉の銅像が建っている。

韓国の道路は右側通行であるが、映画では車は左側を走り、道路標識に描かれた地名も、植民地支配の時代の地名が使われている。街の居酒屋で飲む人々は、日本酒のおちよこで酒を飲む。パトカーのデザインも日本のもので、ナンバープレートも日本式。車の側面には「京城府警察」と書かれ、警官の制服も戦前の日本で使用されていた詰襟。さらに主人公の坂本は朝鮮人であるが、父の友人の前で堂々と煙草を吹かす。韓国の文化画が上映された。

映画の最後の展開を抜きにして、なぜ上記の状況が大半を占める映画が韓国で制作されたのか、またなぜ日本人が準主役として出演し、男優賞まで受賞したのか、映画を見ていて謎が深まるばかりだった。映画の中とはいえ、あえて完璧に日本化された韓国を描いた理由が分かりかねた。朝鮮人であることを意識し始めた坂本が歴史を作り変えるストーリーの展開になっているが、最後のシーンで日本人の西郷と坂本が作り出す、友好的ともとれるシーンにも違和感を覚えた。その答えを映画が制作された時期の出来事に求めてみた。

映画が制作された二〇〇二年は、金大中氏の大統領の任期中であった。金大中氏は日本に留学経験もあり、日本語が堪能であった。そのプレイトも日本式。車の側面には「京城府警察」と書かれ、警官の制服も戦前の日本で使用されていた詰襟。さらに主人公の坂本は朝鮮人であるが、父の友人の前で堂々と煙草を吹かす。韓国の文化画が上映された。

しかし当時、韓国民衆の対日感情が良好であったとは言い難い。日本が鬱陵島を排他的経済水域(EZ) 基点として要求した際、当時の金大中政権は日本の主張どおり鬱陵島を基点にして協定の妥協点を作ったが、そしてそれに憤った韓国の漁師たちは、漁船を燃やす事件を起こした。IMF危機の克服と南北首脳会談を成功させるための日韓の協力関係が当時の大統領の政治的方針であったと思われる。その意味で本作品は、当時の政治的状況が少なからず反映されたものと言える。

二〇〇二年当時の韓国の状況を思いながら、知り合いの朝鮮人と改めて、本作品を鑑賞した。映画を見た知り合いの反応も、筆者のそれと同じであった。映画そのものは全体的に親日映画ではないが、映画の大部分を占める日本語、日本化の嵐に違和感を覚える、冗談でもこんな映画を作るべきでない、というのが映画を見終わった後の言葉であった。

本作品が制作された背景は想像がついたが、本作品が作られた意

図、そして誰を対象にしたものなのか、最後まで分からなかった。

(注1)

一九一九年三月一日に日本統治下の朝鮮で起こった日本からの独立運動。大韓民国では肯定的評価され、三月一日を三一節として祝日に指定している。また大韓民国憲法の前文には「三・一運動で建設された大韓民国臨時政府の法の正統を継承し」とある。つまり韓国では国の正統性を三・一独立運動と臨時政府に置いている。その一方で朝鮮民主主義人民共和国(以下、「共和国」)では、三・一独立運動について、抗日武装蜂起を触発したという評価にためている。

また共和国の社会主義憲法序文では、「金日成同志は不滅のチュチェ思想を創始し、その旗のもとに抗日革命闘争を組織、指導して栄えある革命の伝統を築き、祖国解放の歴史的偉業を成し遂げ、政治、経済、文化、軍事の各分野において自主独立国家建設の強固な基礎を築き、それに基づいて朝鮮民主主義人民共和国を創建した。」とあり、光復を金日成主席の抗日革命闘争の結果と規定している。韓国と共和国の憲法を比較すると、南北朝鮮で歴史認識の違いが感じられる。

(注2)

第一次上海事変末期の一九三二年四月二十九日に上海の現在の魯迅公園で発生した爆弾テロ事件。事件によって上海居留民団行政委員会長の医師河端貞次が即死、第九師団長植田謙吉中将、第三艦隊司令長官野村吉三郎海軍中将、在上海公使重光葵、在上海総領事村井倉松、上海日本人居留民団書記長の友野盛が、それぞれ重傷を負った。重光葵は右脚を失った。その他に民間人が多数死亡したとされる。魯迅公園は当時虹口公園であったことから、虹口公園爆弾事件とも呼ばれる。爆破後自殺を図ろうとした尹奉吉は上海派遣軍憲兵隊により検挙され、軍法会議を経て十二月十九日金沢刑務所で銃殺刑となった。

かんよう出版

TEL 06-6556-7651
FAX 06-7632-3039

ごあんない

戦争と文学
韓国から考える

本体2,400円

金正勲著

- 第一章 『明暗』における病氣と戦争、漱石の内部と外部のたたかい
付記/漱石と韓国―東洋の価値 新たに認識
- 第二章 『点頭録』論、死の年に語る漱石の平和メッセージ
付記/『点頭録』そして『明暗』の誕生
- 第三章 松田解子『花岡事件おぼえがき』考、朝・日、朝・中労働者の連帯の視点から
付記/『地底の人々』の舞台を訪ねる(一)
- 第四章 松田解子『地底の人々』論、不適切な関係に見出されるもの
付記/『地底の人々』の舞台を訪ねる(二)
- 第五章 新美南吉を社会的視座より読み直す、「アプシのくに」ほか
付記/韓・日青少年平和交流を振り返る、韓・日作家紹介の視点より(一)
- 第六章 文炳蘭の詩と作家精神、反戦と抵抗そして統一
付記/韓・日青少年平和交流を振り返る、韓・日作家紹介の視点より(二)
- 第七章 韓水山『軍艦島』を読む、朝鮮人徴用抗夫の視点より
付記/本章の理解を深めるために

いま面白い市民運動の情報誌 グループ紙誌 『ほのぼの』 『ほのぼの』 『ほのぼの』

●ECHO/エコー

第五六号(二〇一九・一・十五) 発行
旧日本軍による性的被害女性を支える会/名古屋市中区新栄町

○とんでもない・「平和の少女像」撤去要求/まず加害国日本が謝罪を/「平和の少女像」制作彫刻家(金ウソソさん・金ソギョソさん)講演会/平井克也

○ドイツに日本が妨害/行く場を失った「平和の少女像」/李斗熙
○「慰安婦」メモリアル碑か、姉妹都市解消か/平和願うサンフランシスコにあきれた大阪市の茶番(ばん・ちよんしゃ)
○語り始めた性暴力被害/沈黙破って次々明らかに/中村紀子

●名古屋三菱・朝鮮女子勤労挺身隊訴訟を支援する会 News

(第七六号(二〇一九・二))【発行

〓 同会(名古屋千種区)

○ 大法院勝利判決と今後の課題/高橋 信

○ 勤労挺身隊大法院判決に至るまでの経過/弁護士 岩月浩二

○ 【要請書】三菱重工(株) 社長宛/勤労挺身隊光州訴訟弁護団・広島徴用工訴訟弁護団

○ 一九九九年三月一日名古屋裁判提訴二〇〇年、原告たちの今

●ポラム

発行/岐阜朝鮮初中級学校の子どもたちを支援するポラムの会/岐阜市長良雄総

(第九一号(二〇一九・一・二六))

○ 【HAKKYO】おじさん/金明宜

○ 「強制徴用」は人権のリトマス試水試験/ナム・ジョンホ

(第九二号(二〇一九・二・十六))

○ 【HAKKYO】二人だけの「ウリ(私たち)」/許佳蓮

○ 私たち日本人は、植民地支配の歴史に向き合い、真の友好を築こう/被害者個人の請求権は消滅していない/杉下芳松

●結(ゆい)

(第十六号(二〇一九・二・一四))
発行/ユニオンと連帯する市民の会/名古屋市熱田区

○ 小特集/連帯労組関西生コン/支部弾圧事件

○ 労働組合つぶしはの大弾圧は戦争への道/柿山 朗

○ 『かなま勝手蓮・しが』の立ち上げ/稲村 守

○ 連帯労組関西生コン/支部弾圧に対する抗議/近森泰彦

○ 全日建関西生コン/支部弾圧にたいする抗議声明/秘密保護法対策弁護団

○ 共謀罪と労働運動/木村直樹

●半田・戦争を記録する会通信

(No.七五、二〇一九・一・十五) 発行/同会・半田市花園町

○ 中京女学校から半田・中島へ/山口満子

○ 出前授業「半田の戦災」/半田市総務課企画

○ オータムフェス夢の学校から日本福祉大付属高校

○ 日本福祉大学ゼミでゲスト講義

●瀬戸地下軍需工場跡を保存する会会報

(第一四七号(二〇一八年九月十五日))
発行/同会/瀬戸市

○ 十三試艦上爆撃機『彗星』/首無し彗星山積』の真相/渡辺哲

○ 大戦末期の貴重なお宝見つかる!/朝鮮半島の地主資料

○ 現地整備/瀬戸公園近くの里山草刈り作業

●革新・愛知の会

(第二八三・二八四号(二〇一九・一・十))【発行/平和・民主・革新の日本をめざす愛知の会(名古屋熱田区)】

○ 【新春インタビュー】小林武さん/安倍改憲阻止は、憲法が活かされる政治の展望開く

○ 【青年ネットAICHI企画】上井さんに聞いてみよう!/主権者としての私たち

○ 【わが街の革新懇】新日鉄住金名古屋製鉄職場革新懇/二十数年継続の製鉄門前宣伝

ほか

【表紙】三浦雅子